



# 奈良県内経済情勢報告

(令和6年10月判断)

## 1. 総論

### 【総括判断】

「県内経済は、持ち直している」

項目	前回 (6年7月判断)	今回 (6年10月判断)	前回比較
総括判断	持ち直している	持ち直している	→

(注) 令和6年10月判断は、前回6年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

### (判断の要点)

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、足踏みの状況にある。雇用情勢は、持ち直しつつある。

### 【各項目の判断】

項目	前回 (6年7月判断)	今回 (6年10月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	→
雇用情勢	持ち直しつつある	持ち直しつつある	→
設備投資	6年度は前年度を上回る見込み	6年度は前年度を上回る見込み	→
企業収益	6年度は増益見込み	6年度は増益見込み	→

### 【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、持ち直していくことが期待される。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

## 2. 各論

### 【主な項目】

#### ■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

- ・百貨店・スーパー販売は、物価上昇に伴う消費者の節約志向の高まりにより、低調に推移している。
- ・コンビニエンスストア販売は、手ごろな価格訴求型の飲食料品を中心に、堅調に推移している。
- ・ドラッグストア販売は、インバウンドや国内客の増加により、医薬品や季節商品を中心に、好調に推移している。
- ・ホームセンター販売は、足下で防災用品の需要が高まっているものの、物価上昇の影響で全体としては買い控えの動きがみられることから、足踏みの状況にある。
- ・家電大型専門店販売は、エアコンなどの季節商品や携帯電話を中心に、堅調に推移している。
- ・乗用車新車登録届出台数は、軽自動車では前年を下回っているものの、普通車・小型車で前年を上回っており、全体では前年を上回っている。
- ・観光動向は、インバウンドや国内観光客の増加により、回復している。

#### (主なヒアリング結果)

- 物価高の影響で利用客の財布の紐は堅く、不要不急のものは購入しないという傾向が強いと感じる。(百貨店・スーパー)
- 希望に合った値段や質の商品を求め、近隣のスーパーを使い分けて買い回る利用客が増えていることから、客数は増加したものの、買い上げ点数が減少した。(百貨店・スーパー)
- 消費者の節約志向の高まりを受けて、手ごろな価格帯のおにぎりや飲料などを新たに販売したところ好調。また、南海トラフ地震臨時情報発表の影響で、水やカップ麺、米などをパニック買いする利用客が多かった。(コンビニエンスストア)
- インバウンド・国内客ともに増加しており、長引く猛暑の影響で携帯扇風機や冷却シートなどの季節商品が好調だったほか、医薬品や健康食品などの売上が伸びている。(ドラッグストア)
- 南海トラフ地震臨時情報発表や台風10号接近の影響で、ガラス飛散防止フィルムや簡易トイレなどの防災用品が好調だったものの、消費者は、物価高の影響で色々な店の情報を見比べ、より値打ちのあるものを見極めたうえで来店している印象。(ホームセンター)
- 猛暑の影響でエアコンなどの季節商品が売れたほか、新機種種の発売に伴い携帯電話が好調だった。(家電量販店)
- 消費者の購買意欲に落ち込みはみられず、単価の高い車種も人気があり、売上は好調に推移している。(自動車販売店)
- 宿泊部門、レストラン部門ともに好調で、コロナ禍前の水準まで回復している。特にアジアからのインバウンド利用が増加している。(宿泊)
- 県内飲食店において規模の大小を問わず宴会需要の回復がみられるほか、観光地周辺の飲食店については、インバウンドの利用が増加している。また、来期以降も予約状況が順調であることから、売上の増加を見込んでいる。(飲食)

## ■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

鉱工業生産指数は、「電気機械」「金属製品」などが低下しているものの、「化学」「輸送機械」などが上昇している。

なお、企業からは、EV 関連の需要の減退がみられるとの声が聞かれる一方、自動車関連で台風の影響がみられたものの総じてみれば回復傾向にあるとの声や AI 向け半導体関連の需要が旺盛との声が聞かれている。

以上のことから、生産活動は、足踏みの状況にある。

(主なヒアリング結果)

- EV 向け機器について、受注残があることから生産は堅調に推移しているものの、アメリカを中心に EV 市場の伸びがなくなり、需要の減退がみられている。今年 11 月のアメリカ大統領選の結果によっては EV 普及政策に対する大幅な転換もあり得ることから、アメリカの自動車メーカーは EV 投資に対し、慎重になっている。(生産用機械)
- 国内大手の電機メーカーからディスプレイに関する検査装置の需要が減少している。(電気機械)
- 自動車向け部品は前期と比較し若干の回復傾向にあるものの、工作機械向け部品は全体的に低迷している。(汎用機械)
- 台風 10 号の接近に伴い国内自動車メーカーが工場を一部停止した影響で自動車部品の生産は計画値を下回ったものの、リコール等に伴い停止していた自動車メーカーの生産は再開しており、今期は総じてみれば前期に比べて回復傾向にある。(輸送機械)
- パワー半導体関連は国内大手の電機メーカーから納期の延期要望が多数あるなど需要が減少しているものの、AI 向け半導体関連は需要が旺盛であり、半導体部門全体における受注額は計画を大幅に上回った。(生産用機械)

## ■ 雇用情勢 「持ち直しつつある」

有効求人倍率でみると、引き続き求人が求職を上回っている。また、法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI について、全産業の現状判断は、令和 3 年 4-6 期調査以降 14 期連続の「不足気味」超となっていることなどから、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 工場の生産ラインの省人化に取り組んでおり、正規・非正規職員ともに求人を増やす見込みは無い。なお、非正規職員については、より給与が高い職場を求めて早期に辞める者が増加している。(輸送機械)
- 多くの仕事の依頼が寄せられているものの、人手が足りず一定量しか受注できない状況にあり、売上の増加につながらない。人材を確保するために賃上げや福利厚生の実施に取り組んでいる。(陸運)
- 毎月、定年退職者がいるような状況で、自然減に人員補充が追いついていない。特に、メカニックサービスに従事する若手の獲得に苦労しており、高校に直接求人募集を出したり、民間広告を出したりしているが、思うように人材が集まらない。(自動車販売店)
- 今期、鮮魚・精肉部門の調理担当者を 2~3 名中途採用したが、退職する職員が一定数いることから、依然として人手不足感は強い。(百貨店・スーパー)
- 若者の正社員採用に苦戦しており、外国人の正社員を雇うなどして対応している。フロントの外国人職員は英語・日本語が堪能で、顧客からの評価は高い。(宿泊)
- 7 月以降、小売業の新規事業所や、秋の観光シーズンに向けて飲食店からの求人が増加した。なお、原材料価格等の上昇分を価格転嫁できない中小零細企業において、求人を控えて省人化・省力化に取り組まざるを得ないとの声や、人手が足りず事業所を閉鎖したとの声も聞かれている。(公的機関)

■ **設備投資** 「6年度は前年度を上回る見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」令和6年7~9月期

6年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに前年度を上回る見込みとなっている。

■ **企業収益** 「6年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」令和6年7~9月期

6年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、製造業で増益見込みとなっているものの、非製造業で減益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ **住宅建設** 新設住宅着工戸数で見ると、分譲において前年を上回っていることから、全体では前年を上回っている。

■ **公共事業** 前払金保証請負金額(累計)で見ると、国、県、市町村で前年を下回っていることから、全体では前年を下回っている。

■ **企業倒産** 倒産件数は足下で前年を下回っている。負債総額は前年を上回っている。

■ **企業の景況感** 法人企業景気予測調査(令和6年7~9月期調査)の景況判断BSIで見ると、現状判断は「上昇」と「下降」が均衡している。先行きについては、6年10~12月期は「上昇」超、7年1~3月期は「下降」超の見通しとなっている。

〔連絡・問い合わせ先〕

近畿財務局 奈良財務事務所 財務課  
TEL 0742-27-3162 (直通)